

2 0 0 5 年 4 月 1 1 日

株式会社 富士キメラ総研
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
2-5 F・Kビル
TEL.03-3664-5841 FAX.03-3661-7696
URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>
広報部 03-3664-5697

映像、音響機器、エンターテインメント機器などAV機器市場調査を実施

映像・音響機器市場（50品目）は2008年に1兆9,242億円市場に（04年比109%）

総合マーケティングビジネスの（株）富士キメラ総研（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 表 良吉 03-3664-5841）は、デジタルへの製品シフト、デジタル放送開始、ブロードバンドの普及による大容量コンテンツの増大等により、新たな用途・需要を創出し活況を呈しているAV機器市場の調査を行った。その結果を報告書「デジタルAV機器市場マーケティング調査要覧（2005年版）」にまとめた。

本報告書の調査対象である広義のAV機器（60品目）の2004年国内市場規模は3兆7,419億円（前年比102%）である。ゲーム機や携帯電話を除いた映像・音響機器（50品目）を対象とした2004年の市場規模は約1兆7,728億円（前年比106%）であり、デジタル化の進行による機能向上、用途の広がりなどにより、2005年以降も拡大が予測される。

本報告書では、主要AV機器60品目（エンターテインメント機器やカーAV機器を含む）を対象とし、各製品の国内市場動向、製品トレンド、参入メーカーの事業展開等をポイントに調査を実施した。さらに、40品目については世界市場ベースで調査を実施し、各製品の世界市場規模推移、地域別動向等の把握を行った。

<調査結果の概要>

2003年12月より三大都市において地上波デジタル放送が開始され、順次放送エリアが拡大している。2006年末には全国主要都市で視聴可能となり、世帯普及率は80%を超えるものと見られている。デジタル放送の普及はTV需要を押し上げるだけでなく、大容量化、高画質・高音質ニーズの高まりによってDVDレコーダー等の映像記録・再生機器やホームシアターシステム等の音響機器の需要も拡大させている。

AV機器の核であるTV市場は、ブラウン管（CRT）TVから液晶TV、PDP-TVといった薄型TVへのシフトが進んでいる。今後はリアプロやELやSEDといった新デバイスによる商品化も進み、デバイス間の競争は一層激化していくことが予測される。映像記録・再生機器市場は、VTRからDVDへのシフトが進む中、2004年にはアテネオリンピック等の特需やデジタルTVとの相乗効果もあり、DVDレコーダー市場が拡大し、プレーヤー市場を大きく上回った。規格争いが注目されている次世代DVDでは、Blu-ray Disc レコーダー/プレーヤーの商品化に続き、2005年にはHD-DVDレコーダー/プレーヤーの市場投入も予定されている。

映像機器に比べ低迷が続いている音響機器市場についても、「iPod」のヒットに代表される HDDオーディオ、シリコンオーディオといったデジタルオーディオプレーヤー市場が急速に市場を拡大させている。実売3万円を切り、小型化が図られた「iPod mini」の登場によってユーザー層は更に広がりを見せている。この分野では、これまで海外メーカー製品中心の市場であったが、国内メーカーの参入が相次いでいる。

<注目市場>

テレビ（CRT-TV、液晶TV、PDP-TV、プロジェクションTV、ポータブルTV）

2004年 975万台 2008年 1,167万台（04年比120%）

ブラウン管（CRT-TV）に代わり、液晶、PDP-TVといった薄型TVへのシフトが進んでいる。今後の主力と予測される液晶TVは製品の低価格化に伴う30インチ台のヒットや製品の薄型、長寿命、高精細、高輝度といった特徴から比率が高まっている。TV全体の需要は薄型、省スペース化の実現により一家に1台から、各部屋に1台の需要に広がっている。液晶TVと同様に市場が拡大しているPDP-TVは、今後液晶方式において40インチ以上の製品投入が増加することから、徐々に50インチ以上の製品が中心になっていく見込みである。液晶TVに比べ40インチ台は低価格化を実現しているが、高画素といった点で液晶に劣っており、今後デジタル放送が一層普及していくことからハイビジョン対応（解像度：1,080P）の製品投入が期待されている。

プロジェクトンTVは、2004年以降日本市場への投入が増加しているが、住居面積の狭い日本の住宅におけるニーズは低く、サイズの競合しているPDP-TVとの価格比較(低価格である)により選定されている状況である。今後さらに薄型化や大型、低価格化が進むと見られるが、競合製品の技術的な進展も予測され、50インチ以上の大型サイズ主体に一定量を確保すると考えられる。

2006年以降は、SED-TVやEL-TVといった新たな製品の投入も行われる予定であり、薄型化が進む中で各デバイス間の競合が激しくなることが予測される。

映像記録・再生機器(VTR、D-VHS、DVDプレーヤー、ポータブルDVD、DVDレコーダー、VTR・DVD一体型、DVD・HDD一体型、VTR・DVD・HDD一体型、HDDレコーダー、Blu-rayDiscプレーヤー/レコーダー、HD-DVDプレーヤー/レコーダー)

2004年 931万台 2008年 1,039万台(04年比112%)

2004年の映像記録・再生機器市場は、前年比112.3%の約931万台となっている。VTR市場が大きく減少する中、HDDを内蔵するDVDレコーダーの市場拡大に加え、ポータブルDVDの低価格化による需要増加によって市場は拡大している。

AVソフトのレンタル、セル市場でVTRに代わってDVDが普及したことで、VTRからDVDプレーヤーへとシフトが進んできた。しかし、DVDレコーダーの低価格化によって録画機としてもVTRからDVDへのシフトが進んでいる。そうしたなかで、ポータブルDVDプレーヤーは旅行や出張時など時間・場所を問わず、DVDを視聴したいというニーズに対応するかたちで市場を拡大させてきている。機能よりも価格を重視した商品、中国を中心とする海外メーカー品の増加などにより、急速に低価格化が進んだことが大きな要因となっている。

DVDレコーダーでは、「HDDに溜めて、気に入ったものをDVDに残す」という利用提案がユーザーに評価されており、HDD内蔵タイプが主流となっている。また、既存のビデオテープ資産を再生/ダビングしたいというニーズが残っていることもあり、3in1タイプを含むVTR一体型の需要が増加している。

次世代DVDは2003年にソニーよりBlu-ray Discレコーダーが上市され、続いて2004年に松下電器産業、シャープからも商品化されているが、既存のDVDレコーダーとの価格差から、一部のマニア層での需要に限られている。対抗規格であるHD-DVDでも、2005年第4四半期以降に東芝、三洋電機より商品投入される見込みとなっている。

デジタルオーディオプレーヤー(HDDオーディオ、シリコンオーディオ)

2004年 100万台 2008年 330万台(04年比330%)

HDDオーディオ、シリコンオーディオを対象とするデジタルオーディオプレーヤー市場は、2004年で100万台、195億円となった。特にHDDオーディオは前年比200%と大幅に市場が拡大しており、7月にアップルコンピュータが小型で販売価格が30,000円を切った「iPod mini」を日本国内で発売し、ヒットしたことが大きい。シリコンオーディオは価格対容量でHDDオーディオに劣っていたものの、2004年に低価格化が進み、中心価格帯が1万円台になったことでこれまで価格がネックとなり購入を控えていた層からの需要が得られた。また、首から提げるスタイルが定着しつつあり、HDDオーディオと比べ小型・軽量なことから女性の支持も得られていると見られる。2005年はシリコンオーディオで「iPod shuffle」が投入され、国内メーカーでもオリンパスやケンウッド、日立製作所が新規参入している。また、松下電器産業も同社のシステムコンポとのネットワーク化に対応した製品を投入する予定であるなど、市場が活発化している。2005年のデジタルオーディオプレーヤー市場は190万台が見込まれ、さらに拡大する見通しである。

価格や携帯性ではシリコンオーディオが勝るものの、大容量のHDDオーディオに対するニーズが高いこと、HDDオーディオ製品の小型化が予測され、ほぼ1:1の割合で推移していくであろう。

デジタルオーディオプレーヤー(HDD+シリコン)とポータブルMD・CD・カセットプレーヤーを合わせたポータブルオーディオ市場は、2004年で556万台となった。ポータブルMDが50%以上を占め、デジタルオーディオプレーヤーは20%弱となっている。国内はMDメディアが普及しており、中高生などの若年層を中心に安定した需要となっている。ポータブルCDプレーヤーは、CD-R/RW対応や、MP3などの圧縮フォーマット対応などによって一時需要が回復したが、デジタルオーディオプレーヤーの低価格化によって需要を侵食されている。デジタルオーディオプレーヤーの割合は年々増加し、2006年にはデジタルオーディオプレーヤーがMDを上回り、2008年にはMD・CD・カセット合計を上回ると予測される。

<調査対象>

映像機器	<u>CRT-TV</u> 、 <u>液晶TV</u> 、 <u>PDP-TV</u> 、 <u>プロジェクションTV</u> 、 <u>デジタルTV</u> 、 <u>ポータブルTV</u> 、 <u>モバイルAVプレーヤー</u> 、 <u>インターネットTV</u> 、 <u>SED-TV</u> 、 <u>EL-TV</u> 、 <u>ホームプロジェクター</u> 、 <u>VTR</u> 、 <u>D-VHS</u> 、 <u>DVDプレーヤー</u> 、 <u>ポータブルDVD</u> 、 <u>DVDレコーダー</u> 、 <u>VTR・DVD一体型</u> 、 <u>DVD・HDD一体型</u> 、 <u>VTR・DVD・HDD一体型</u> 、 <u>HDDレコーダー</u> 、 <u>Blu-rayDiscプレーヤー/レコーダー</u> 、 <u>HD-DVDプレーヤー/レコーダー</u> 、 <u>地上波・BS・110°CSデジタルチューナー</u> 、 <u>CATV-STB</u> 、 <u>インターネットSTB</u> 、 <u>ストリーミングSTB</u> 、 <u>ビデオカメラ</u> 、 <u>デジタルスチルカメラ</u> 、 <u>デジタル一眼レフカメラ</u> 、 <u>ホームプリンタ</u> 、 <u>ICレコーダー</u> 、 <u>PC・Webカメラ</u>
音響機器	<u>ホームシアターシステム</u> 、 <u>スピーカー</u> 、 <u>アンプ</u> 、 <u>CDデッキ</u> 、 <u>MDデッキ</u> 、 <u>チューナー</u> 、 <u>レコードプレーヤー</u> 、 <u>システムコンポ(DVD・CD・MD)</u> 、 <u>システムコンポ(CD・HDD)</u> 、 <u>ポータブルCDプレーヤー</u> 、 <u>ポータブルMDプレーヤー</u> 、 <u>HDDオーディオ</u> 、 <u>シリコンオーディオ</u> 、 <u>ヘッドフォンステレオ</u> 、 <u>ラジオ</u> 、 <u>ラジカセ</u> 、 <u>ヘッドフォン</u> 、 <u>マイククロフォン</u>
エンターテインメント・情報機器	<u>ゲーム機</u> 、 <u>家庭用ロボット</u> 、 <u>携帯電話</u> 、 <u>電子書籍専用端末</u> 、 <u>電子辞書</u>
カーAV機器	<u>カーTV</u> 、 <u>カーナビゲーションシステム</u> 、 <u>ポータブルカーナビゲーションシステム</u> 、 <u>ヘッドユニット(CD・MD)</u> 、 <u>ヘッドユニット(DVD・HDD)</u>

(下線の40品目は世界市場を調査)

<調査期間>

2005年1月～3月

<調査方法>

(株)富士キメラ総研専門調査員による調査対象・関連企業に対してのヒアリング取材及び(株)富士キメラ総研社内データベースの活用による調査・分析

以上

資料タイトル：「デジタルAV機器市場マーケティング調査要覧(2005年版)」

体 裁：A4判 321頁

価 格：97,000円(税込み101,850円)

調査・編集：株式会社 富士キメラ総研 研究開発本部 第二研究開発部門

TEL:03-3664-5841(代) FAX:03-3661-7696

発 行 所：株式会社 富士キメラ総研

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5841(代) FAX 03-3661-7696 e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL: <http://www.group.fuji-keizai.co.jp>